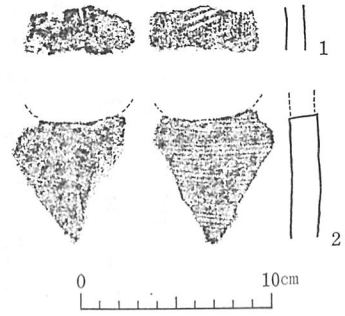




第23図 宇度墓の出土品 (1/4)

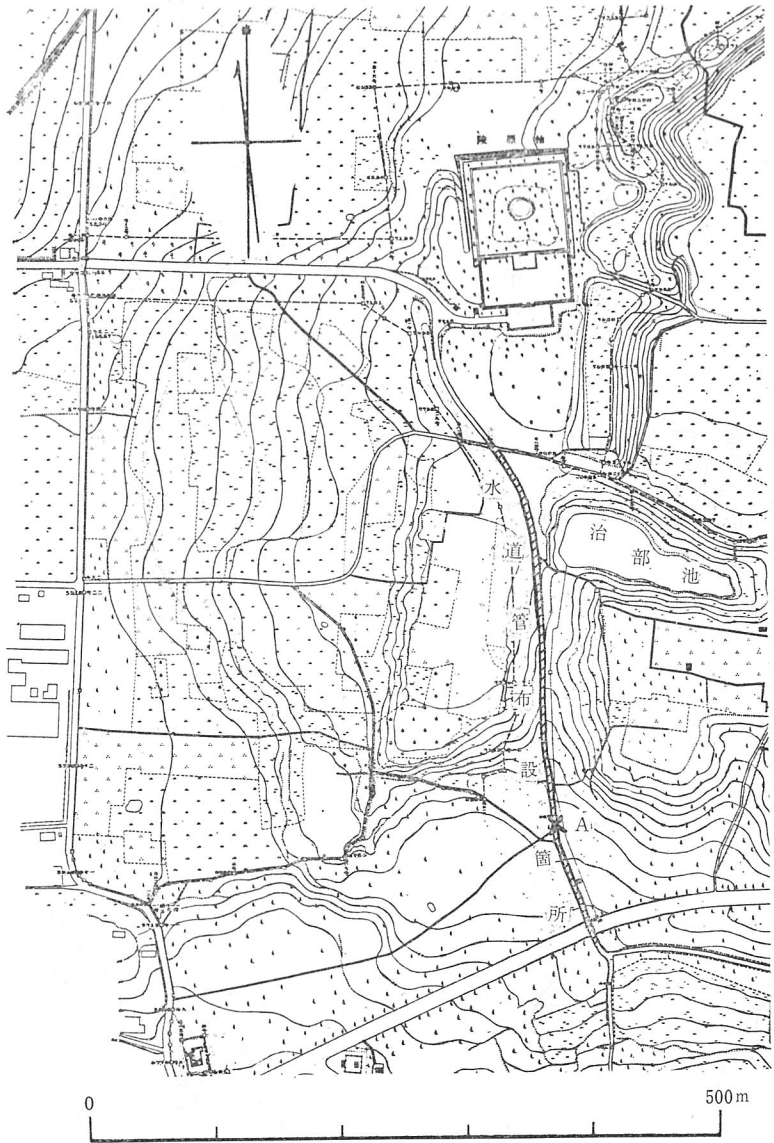
桃山陵墓地内北参道の水道管布設替え工事に伴う
立会調査

標記の調査を、昭和五十九年十二月十三日から同二十一日まで実施した。

掘削は幅〇・六メートル、深さ一・二メートルで、全長約四〇〇メートル

に及ぶ(第24図)。掘削地が長大なため、二〇メートルごとに実測区を設定した外、地層に変化が認められる所は、適宜側面図を作成した。

土相は、全体に既設管の埋戻し土と思われるさまざまな色調の砂礫層が多く、掘削溝底部では一部に粘土層も認められたが、総じて単調である。



第24図 桃山陵墓地内水道管布設箇所的位置 (1/6000)

遺物は、一箇所から丸瓦四片、平瓦七片の計十一片がまとまって出土した(第24図A)。これらは既設管の埋戻し土に包含されていたもので、いずれも摩耗が激しく小片にすぎないが、丸瓦の中にはわずかに布目や削り痕の認められるものもある。

(内海克己・上村雅洋・土生田純之)